



# 吉祥寺音楽祭

まだ国内で音楽フェスが珍しかった昭和61(1986)年、吉祥寺のまちと人を音楽でつなぐイベントとして始まった「吉祥寺音楽祭」が、今年で40回目を迎えます(5月3日~5日開催)。音楽を軸に、アートや食などを交えた「創造と文化のお祭り」へと生まれ変わった音楽祭の昔と今、これからの語っていただきました。



## 多様なカルチャーが根づくまちの中で生まれた音楽祭

■三次さん 私は生まれも育ちも吉祥寺なのですが、大学入学や就職で一時期市外に出ている、吉祥寺に戻ってきたのが今から10年ほど前。家業を継ぐことになって商店街との関わりも大きくなる中で、吉祥寺音楽祭の存在を知ったんです。実は吉祥寺に住んでいたのに音楽祭のことは全く知らなかったんですよ(笑)。商店会の持ち回り制だったので実行委員会に加わることにな

まちを盛り上げるイベントがある」と教えてもらい、2年前から音楽祭に関わるようになりました。ちょうど三次さんたちが音楽祭を新しく変えていこうとするタイミングで参加させてもらった感じですね。

つて、2年後に実行委員長になるタイミングで「音楽祭をもっと良くしたいので、しばらく委員長をやらせてほしい」とお願いして今も携わっています。

■三次さん 音楽が好きなたちに愛されてきたからこそ40年も音楽祭が続いてきたんだと思う一方、地元で生まれ育った自分が知らなかったくらいなので、もっと幅広い層に届くイベントにできないかという思いがあつて、昨年「創造と文化のお祭り」として大幅にリニューアルしました。

■安井さん 私は9年前から武蔵野市に住むようになって、市内で事業を展開する中で、商店街の方から「音楽で

■安井さん 私もハーモニカ横丁で飲んでいたら、音楽祭のことを知らない若者がいて驚いたことがあります。とはいえ、2人とも音楽祭がスタートした40年前のことはよく知らないのですが、最初はどんな感じで始まったんでしょう。

みつきこうへい ■三次耕平さん

吉祥寺音楽祭実行委員長。株式会社不二屋代表取締役。ダイヤ街商店協同組合副理事、株式会社仲町ダイヤ街副社長なども務め、第34回から吉祥寺音楽祭の実行委員長を務める。

やすい つとむ ■安井力さん

吉祥寺音楽祭副実行委員長。おそうじ本舗吉祥寺店、株式会社武蔵野ソリューション代表取締役。2015年、ハウスケアやオンラインショップなどを行う武蔵野ソリューションを立ち上げ、2023年から吉祥寺音楽祭の副実行委員長を務める。



歩行者が足を止めて音楽を楽しむコピス吉祥寺ふれあいデッキ こもれび (令和6年)

■三次さん 音楽祭に長年携わっていて、今も助けていただいている川名昭さん(ライブハウスPlanet K 顧問)に聞いたところ、武蔵野市在住だったフォークシンガールの故・高田渡さんや老舗ライブハウス「のろ」のオーナー故・加藤幸和さん、当時の「ぐわらん堂」のマスター村瀬雅美さんなど、当初はフォーク界隈の方々と吉祥寺の商店街の方々が集まって自然発生的に生まれてそうです。40年前は、まだ国内で音楽フェスも無かった時代ですが、もともと吉祥寺は故・野口伊織さんがつくった「PUNKY」や「SOMETIME」



音楽ファンおなじみの井の頭恩賜公園野外ステージ (令和6年)

などのジャズバーの名店もあって、音楽のまちのイメージがありましたから

■安井さん 音楽だけでなく、吉祥寺はマンガやアニメなど、カルチャー全般が根づいているまちなので、こうしたイベントを受け入れる土壌があったんでしょうね。

■三次さん ちょうど吉祥寺の商店街のコミュニティが形成された「商店街の青年期」のような時期にスタートしているんですよ。ライブハウスなどの屋内空間だけでなく、駅前の広場など、誰もが気軽に見ることのできる野外会場を使えるようになったことで、まちの中で楽しむ音楽祭として定着していったのでしょうか。

## 40回の節目を迎え 継続していくための さらなる進化を

■安井さん 今年には40回の節目の年に

なりますが、さらにスケールをアップさせたいですね。

■三次さん 昨年に引き続き東急百貨店吉祥寺店さんやコピス吉祥寺さん、キラリナ京王吉祥寺店さん、吉祥寺マールイさんなど、吉祥寺の大型商業施設との連携も強化していく予定です。駅前だけでなく、吉祥寺のまち全域を回遊してもらうための企画として、吉祥寺のお店を紹介したパンフレットも作成して、特定のアーティストを見に市外から来られた方に吉祥寺のまちの魅力を知ってもらうきっかけにしたいですね。そこをつなぐのが音楽祭の役割なのかな、と。

■安井さん 「音楽祭でまちに人がいっぱい集まっているね」というだけでなく、「お店の中にも人がいっぱいいるね」という状態になるのが理想的です。そこに誘導するためのコンテンツをどうつくるのがカギですよ。

■三次さん イベントは長く続いていると、どうしても主催者側もアーティストもお客さんも高齢化してくるので、そこをどう活性化していけるのかもこれからの課題だと思っています。私の娘は中学3年生なのですが、たとえばそのくらいの歳の子どもが友だちを誘って行きたいと思えるような、あるい



吉祥寺駅北口駅前広場にも屋外テントステージが登場 (令和6年)

はファミリーで盛り上げられるような音楽祭にしていけたら、これから先も長く続くイベントになるんじゃないかな。昨年からお子さまも参加できる企画もスタートしています。

■安井さん ベテランのアーティストとそこについているお客さんは大事にしながらも、さらに若い人が関心を持つアーティストにも出してもらって、結果的にあらゆる年齢層の方が楽しめるのが一番いいのかなと私は思っています。すでに吉祥寺音楽祭は、そういうまちぐるみのイベントになりつつあるんじゃないでしょうか。



吉祥寺音楽祭  
2025